

科目名	日本地域形成論 Regional Developments in Japan						
科目担当者	朝日 克彦 ASAHI Katsuhiko						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	法学部・法律学科 [専門教育科目 関連科目]					ディプロマポリシーとの関連	(1) (4)
授業の概要	わが国は約 38 万 km <sup>2</sup> と世界を俯瞰した時には限定された国土でありながら、その歴史的、自然的背景の多様性によって地域ごとにさまざまな違いや特徴がある。こうした各地域を構成する背景要因を説明したうえで、わが国の各地方の成立要因を考察する。こうした各地方の背景や現状を把握することで、今日的課題を考えられる。						
授業の到達目標	① 地域を理解する意義やその手法を習得する。 ② 地域が今日の様相になった過程やその要因、背景を理解する。 ③ 今日、地域が内包する諸課題について現実に即して考察する。						
授業計画・内容	1	イントロ 講義の進め方、わが国の基本的な地域構造					
	2	地域構造の歴史的背景					
	3	農業による地域構造					
	4	資源・工業による地域構造					
	5	商業による地域構造					
	6	北海道地方					
	7	東北地方					
	8	関東地方					
	9	中部地方					
	10	近畿地方					
	11	中国地方					
	12	四国地方					
	13	九州地方					
	14	南西諸島					
	15	まとめ					
授業外学修 (事前学修)	シラバスにもとづいて次回の講義地方について、①自然条件（気温・降水量）、②人口、③おもな経済基盤（農水産業、工業、商業）について地方の特徴を調べたうえで講義に臨む。（毎週 1 時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	前半で 1 回、後半で 1 回、そこまでの内容を踏まえて、自身が関心を寄せる事象についてレポートにまとめ、提出。レポートは教員からの指摘を踏まえて再提出もあり得る。（45 時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	出席（予習チェック）				30%	①, ②	
	レポート 2 回				40%	①, ②, ③	
定期試験（講義内容の理解度）				30%	①, ②, ③		
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	教科書は特に定めないが、毎回の講義には地図帳を持参すること、学校で使っていたモノでかまわない。						
参考文献	伊藤喜栄・藤塚吉浩 編『図説 21 世紀日本の地域問題』古今書院, ISBN 4772241248						
その他							